



サミット会場予定地の賢島(三重県志摩市)

伊勢志摩サミット2016

CLOSE UP MIE



2016年主要国首脳会議
5月26日・27日開催

特設サイト



伊勢志摩サミット三重県民会議

「伊勢志摩でサミットを開いてよかったです」と世界中の皆様に感じて頂けるおもてなしを。



志摩市賢島



ごあいさつ

伊勢志摩サミット（主要国首脳会議）が開催される三重には、日本の総氏神である伊勢神宮があり、参拝のため年間1000万人を超える多くの方が訪れる日本人の精神性の原点、日本人の心のふるさとともに言われる地域です。

サミットが開催される伊勢志摩地域は、リアス海岸特有の複雑に入り組んだ美しい海岸線が広がり、大小の島々や緑の山々など素晴らしい自然環境が伊勢志摩国立公園として指定されています。

伊勢えび、あわび、牡蠣など海産物も豊富で、海女が全国で最も多く、古来、「御食(みけつ)国(くに)」として知られていた8世紀から、海女漁の伝統が、現在にも受け継がれています。

また、2004年に、「紀伊半島の靈場と参詣道」として世界遺産登録された熊野古道伊勢路は、世界でも数少ない

「道」の世界遺産であり、山や森に宿る神仏への祈りという形で受け継いできた日本の精神文化を象徴する文化遺産です。

一方で、世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」の日本で唯一の生産拠点や、「MR J（三菱リージョナルジェット）」の部材品の生産工場が2016年に稼働予定など高い技術力を持った企業が集積しているほか、鈴鹿サーキットでF1日本グランプリが開催されるなど技術の革新を担う地域でもあります。

このように「伝統と革新」を併せもつ三重県は、正に日本の縮図でもあります。

伊勢志摩サミットの開催を契機に是非、三重県を訪問いただき「伝統と革新」を担う人々、また海女文化や忍者、真珠、萬古焼・伊賀焼等、そして松阪牛など食の魅力あふれる三重にも触れていただければ幸いです。

おもてなしする心を代々受け継いできた三重県民が、歓迎いたします。

伊勢志摩サミット三重県民会議会長
三重県知事

鈴木英敬

人を愛しむ 「お伊勢さんの おもてなし」

伊勢神宮は、一年を通じて朝5時からお参りができます。伊勢神宮の門前町にある赤福本店では、早朝から参拝に訪れる人々を迎えるため、毎朝4時頃から竈の火を焚き、店頭でお出しするお茶を入れる湯を沸かします。昔から一日も欠かすことなく続く赤福のおもてなしは、お伊勢参りに訪れる人々を心から大切に思い、最善のおもてなしで迎えたいという心からです。この人様を尊び、その喜びを自分の喜びとして嬉しく感じる心は世界の皆さんと育みたい思いやりです。

お伊勢参りの名物 「赤福餅」



300年以上前から伊勢神宮の参拝客が食した赤福餅をはじめ、三重県内の各地ではお伊勢参りの旅人をもてなした名物餅が楽しめます。2017年4月～5月には第27回全国菓子大博覧会・三重が開催されます。



昔も今も変わらぬおかげさまの心で、今日もお待ち申し上げております。

CLOSE UP
Iseshima



伊勢神宮 内宮



伊勢茶



夫婦岩

自然を尊ぶ 「海女」の思い

三重県には、全国で最多となる761人の海女（平成26年海の博物館調べ）が活躍しています。県では一つの生きた文化として全国で初めて「鳥羽・志摩の海女による伝統的素潜り漁技術」を県無形民俗文化財に指定。ユネスコの無形文化遺産への登録を目指しています。自然の恵みに感謝し、資源を持続的に維持するため漁獲物を獲り尽くさないようにする海女文化は、世界の皆さんと共有したい自然を大切にする心です。

いつも笑い声が絶えない 海女小屋で 海女の話に耳を傾ける



身一つでアワビやサザエなどを獲る海女たち。その伝統的な海女漁の貴重な話が聞ける海女小屋体験では、底抜けに明るい海女たちとの心温まる交流が楽しめます。



いつまでも美しい海と、その恵みを守りたいから。
海女漁では必要な分だけ分けてもらう。

CLOSE UP
Iseshima



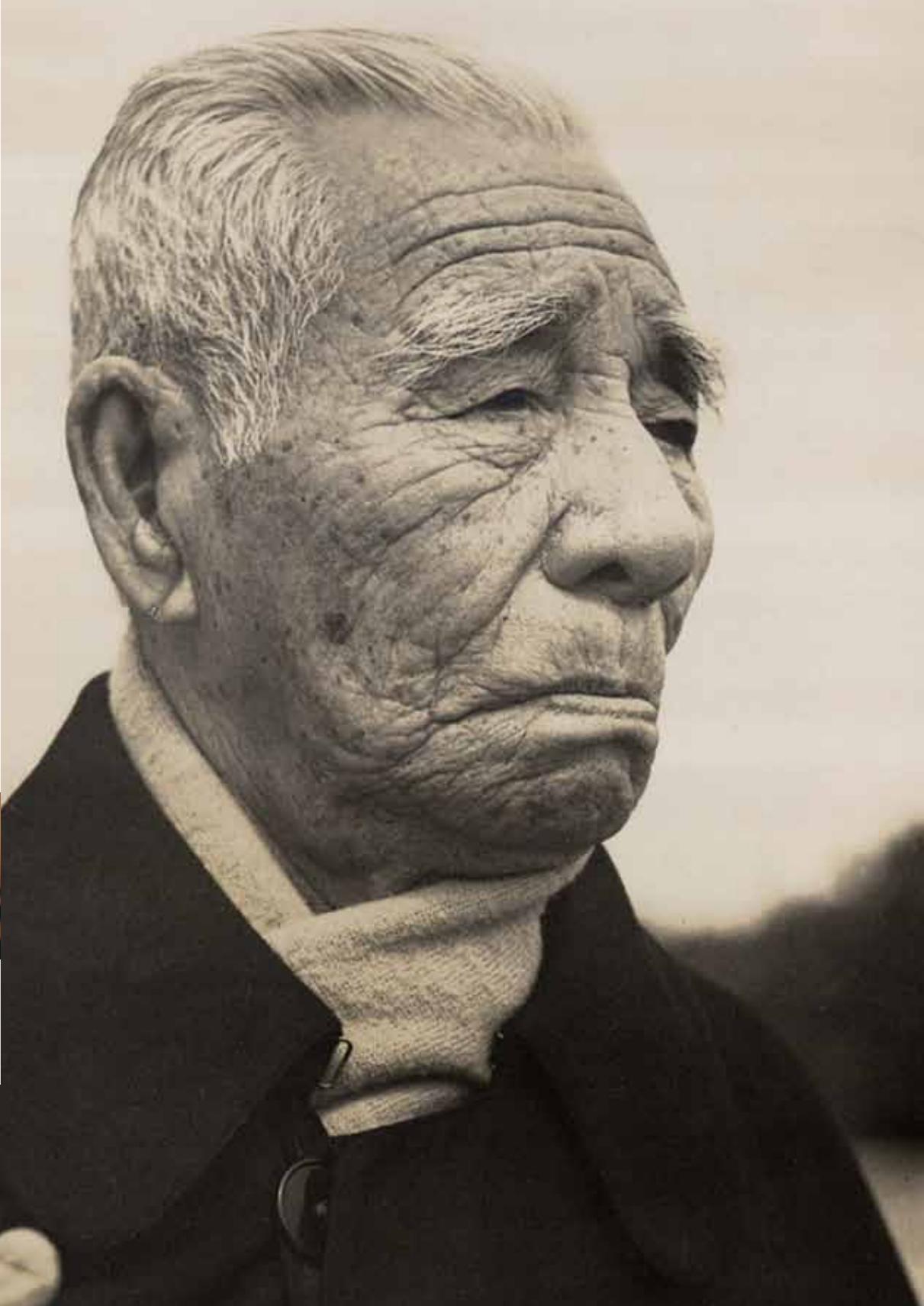
「真珠王」の チャレンジ精神

世界で初めて真珠養殖を成し遂げた御木本幸吉。その96年の生涯の中で心を打つ名言を数多く残しています。その一つに産業が発展した社会で次に大切なことは観光に力を入れる事だと説いています。世界中の女性の首を真珠で飾りたいと夢の実現に邁進した幸吉翁の経営哲学や人生訓は、世界の皆さんと共有したい困難を乗り越えるチャレンジ精神です。

幸吉翁が 愛した絶景 「ともやま公園の夕景」



幸吉翁には、彼の家を訪れる客人に眼下に広がる鳥羽湾や真珠養殖をおこなった英虞湾の絶景を紹介したという話が残っています。



これからの日本は、観光に入れなきやいかん。
わしは日本中を公園にしたい。

CLOSE UP
Iseshima



鳥羽水族館



牡蠣



真珠

最高峰の和牛 「松阪牛」の 食文化

日本でも最高峰の和牛として愛される松阪牛。その名声を広めたのは、1935年に東京芝浦市場で開かれた全国肉用牛畜産博覧会で最高の名誉賞を獲得したのがきっかけでした。平均月齢は31ヶ月（兵庫県産子牛を900日以上肥育することを条件とする特産松阪牛は平均月齢41ヶ月）という年月の間、1頭1頭惜しみなく世話を続ける肥育農家の努力によって磨かれてきた伝統の味は、世界の皆さんに一度は食べて頂きたい味わいです。

本場の松阪市には、牛肉を食べる食文化が日本に生まれた明治の頃から続く松阪牛専門の老舗があります。

切磋琢磨され磨かれる 松阪牛のブランド



毎年11月、肥育農家たちが900日以上もの長い間手塩にかけた特産松阪牛50頭が勢ぞろいし、松阪牛の女王を決める松阪肉牛共進会が開催されます。過去には、優秀賞一席5,000万円の値がついたこともあります。



松阪牛の魅力は、柔らかな肉質と霜降りと呼ばれる常温で溶ける脂肪の甘味にあります。

国史跡 斎宮跡 さいくう平安の杜



CLOSE UP
Chunansei

うなぎ



松阪木綿



世界を 熱狂させる 「NINJA」

三重県には、海外においても知名度の高い伊賀流忍者の発祥地である伊賀（現在の伊賀市・名張市）があります。忍術に関するあらゆる資料を有する「伊賀流忍者博物館」や、忍者が身に付けた技を紹介する「忍者ショー」、伊賀忍者の修行の場であったとされる「赤目四十八滝」など、忍者をテーマとした名所や旧跡、イベントは世界の人びとをも夢中にさせます。

忍者の真の姿を伝える 「伊賀流忍者博物館」



くノ一（女忍者）や忍者による忍者屋敷の「どんでん返し」や「刀隠し」などからくりの実演案内、日本刀や手裏剣、鎖鎌を使った迫力満点の忍者ショーは国内外からの観光客の心を掴んでいます。



ようこそ伊賀流忍者の故郷へ。
世界中の皆さんに謎多きNINJAの知恵や技を楽しんでもらいたい。

CLOSE UP

Iga



赤目四十八滝



伊賀牛



伊賀焼

感動の ドラマを生む 「国際レーシング コース」

三重県には、世界に誇れる国際レーシングコースを有する鈴鹿サーキットがあります。世界最高峰のレース「F1日本グランプリ」や「鈴鹿8時間耐久ロードレース」など、世界からも注目される様々なレースを開催しています。他にも、小さな子どもから自分で操ることのできるアトラクションが豊富なゆうえんちエリアや、宿泊施設、「交通教育」施設がそろい、モビリティのテーマパークとしてモータースポーツの魅力を伝えています。

語り継がれる 名勝負の数々 日本のモーター スポーツの中心地



毎年、鈴鹿サーキットでは、F1日本グランプリなどのレースをはじめ、モータースポーツの素晴らしさや楽しさを伝えるレースやイベントが行われています。



誰もがモータースポーツに親しみ、
「喜び・楽しさ・感動」に出会えるサーキットに。

CLOSE UP
Hokusei



関宿



蛤



伊勢型紙



希望を生む 「四日市公害」 再生の道

日本が高度成長期に入った1960年代、全国各地に大規模な工場が次々と建設される中、工場周辺では様々な公害が発生しました。三重県の四日市市では、全国に先駆け大気汚染によりぜん息に罹患した人々を助けるため深刻な公害問題と向き合い、市民や企業、行政が努力し、乗り越えてきた歴史があります。こうした「四日市公害」は、世界の皆さんと共に考えていきたい未来の環境を守る大切な教訓です。

四日市公害の教訓を 次世代へ 「四日市公害と 環境未来館」



日本の公害問題の解決への道を開き、産業の発展と環境保全を両立させるきっかけとなった四日市公害の歴史等の展示や当時の様子を語り継ぐ語り部の方々のお話など、環境問題に対する取り組みを広く紹介しています。

人間が起こした公害が、こんなに恐ろしいものだとは誰も思っていなかった。

CLOSE UP
Hokusei



御在所ロープウェイ



とんてき



萬古焼

多宗教が共存する 「紀伊山地の 霊場と参詣道」

美しい石畳の峠道に魅せられる熊野古道伊勢路は、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つとして2004年にユネスコの世界遺産に登録されました。登録以降、国内外から多くの方が来訪され、2014年には約43万の方々が訪れるなど、今もなお多くの人々の心を魅了しています。地元では、神々が宿るといわれた熊野三山を目指し歩いた熊野古道の歴史や文化、自然を崇拝する宗教観などを伝えるために、語り部が道標や石畳など当時のおかげを残している伊勢路を来訪者とともに歩きながら案内しています。

熊野古道をより深く学ぶ 情報拠点 「三重県立 熊野古道センター」



東紀州地域の交流拠点として誕生したビジターセンター。熊野古道や古道周辺地域の自然や歴史、文化についての展示や、尾鷲ひのきなど東紀州地域の素材を使った体験学習が楽しめます。



熊野古道伊勢路は、伊勢神宮と、
もうひとつの聖地・熊野三山を結ぶ信仰の路です。

CLOSE UP
Higashikishu



国産リージョナルジェット機 MRJ

三菱リージョナルジェット(MRJ)は、三菱航空機が開発する70～90席クラスの次世代民間旅客機です。三菱重工業と三菱航空機は現在、2017年に予定しております初号機引き渡しに向けて、各種試験は佳境を迎えております。

開発作業と並行して、量産を見据えた国内製造拠点の整備を進めており、三重県松阪市の松阪中核工業団地内に所在する三菱重工松阪工場において、MRJ尾翼(垂直尾翼・水平尾翼)の量産開始を予定しております。

また、隣接地においては、「航空機部品生産協同組合」により、民間航空機の中小物部品の生産準備が進められています。実力がある複数の国内中小企業が三重県松阪市でネットワーク化に取組み、自動車産業の部品製造における効率的量産技術、生産管理・IT手法等を取り入れることによって、品質・価格・納期、そしてフレキシビリティが高い生産拠点の実現を目指しており、当社グループとしましても日本の航空機産業の礎である中小企業各社がグローバル市場で競争できるもの作り企業群となれるよう全面的に支援させて頂いております。

今後も、航空業界の一翼を担いつつ、MRJプロジェクトの成功と、この地域で強力に推進されている「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の更なる躍進に向けて全力で取り組んでまいります。

環境と快適さの両立を目指して



画像提供:三菱航空機(株)

世界最先端の空力設計技術、騒音解析技術などの適用と、最新鋭エンジンの採用により、大幅な燃費低減と騒音・排出ガスの削減を実現します。圧倒的な運航経済性と環境適合性により、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献します。また、1列4席の配置、大型オーバーヘッド・ビンの装備などの採用により、これまでのリージョナルジェット機にはない快適な客室空間を提供します。



松阪市にてMRJ尾翼の量産製造を準備中。

CLOSE UP
“MRJ”



走行試験



格納庫内での点検



垂直尾翼・水平尾翼

画像提供:三菱航空機(株)

画像提供:三菱航空機(株)

画像提供:三菱航空機(株)



伊勢志摩サミット
三重県民会議

A R E A M A P



三重県には29市町(14市・15町)あり、北勢・中南勢・伊勢志摩・伊賀・東紀州の5つのエリアに区分されます。

北勢エリア いなべ市／桑名市／四日市市／鈴鹿市／亀山市／木曽岬町／東員町／菰野町／朝日町／川越町

中南勢エリア 津市／松阪市／明和町／多気町／大台町

伊勢志摩エリア 伊勢市／鳥羽市／志摩市／玉城町／度会町／大紀町／南伊勢町

伊賀エリア 伊賀市／名張市

東紀州エリア 尾鷲市／熊野市／紀北町／御浜町／紀宝町